

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018 年度（前期）指定公募

「市民の集い開催への助成」

完了報告書

テーマ：「看取り」での経験を語る会

平成 30 年 9 月 15 日 第一回目

テーマ：「看取り」での経験を語る会

家族のお看取り経験のある方の語る会

平成 30 年 11 月 17 日 第二回目

テーマ：「看取り」での経験を語る会

医師・訪問看護師、介護専門員が看取りを語る会

申請者：小林 三美子

所属機関：アペゼ

提出年月日：平成 30 年 12 月 26 日

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による
「看取り」での経験を語る会

報 告 書

- 【目 的】**「看取り」を経験したご家族や専門職の話を聞き、
- 看取りを考えることにより、自分がどう生きるかについて考える
 - 延命だけが選択肢ではない事を知る
 - 在宅医療の普及に取り組む。看取りの芽を小田原地区に育てる

【形 式】連続したテーマによる2回にわたる市民の集いの開催

【対象者】一般の方、医療関係者、介護関連職の方、マスコミ関係者等どなたでも

- 【大方針】**看取り経験された人たちの心模様や気持ちの動きを聴くことによって参加者の感性を刺激する
- 概論にならない
 - 方法論にならない
 - 制度利用の知識だけにならない
 - 会場の雰囲気づくりに気を配る

【第一回市民の集い開催】：2018年9月15日

看取りを経験したご家族（ひとまず心の整理が終わっている方）が看取りについて語る。質疑応答。

- 1) スピーカーの紹介（「前振り」別添1）
- 2) 参加者アンケート結果（別添2）
- 3) 反省点など
 - ・開催時間は遅くない方がよい（17時-19時では暗くなった）。
 - ・終了後は雑談し軽食などをとるクールダウンの時間を設ける。
 - ・間にフリータイムを入れてもよい。
 - ・スピーカと参加者の間は近い方がよい（車座など）。
 - ・スピーカーが少人数ならパネルディスカッション形式。聞き手に顔が見える事は大事。
 - ・司会者、パネラーも人に聞かせるようにはっきり話せる人が望ましい。

・語る時間が少なくなった方もいた。長く語る人に長く時間が使われた。

【第二回市民の集い開催】：2018年11月17日

医療・介護の専門家が在宅医療、看取りについて語るのを聴く。質疑応答。

1) 趣旨（「前振り」別添3）

2) スピーカーの紹介：

中島 厚 医師	訪問診療 あおぞらクリニック院長
戸松 絵美	看護師 訪問看護ファミリーホスピス小田原 ファミリー・ホスピス事業本部 小田原センター長
関野 雅子	もみの木居宅介護支援事業所管理者 主任介護支援専門員 歯科衛生士
田中 祐介	富士ライフサポート福祉用具専門相談員、 2級ヘルパー、福祉住環境コーディネーター2級
大越 直美	ヘルパーステーションふわり 訪問介護管理者

3) 参加者アンケート（別添4）

【感想—市民の集いを終えて】

幸運にも今回貴財団の助成を頂きましたお陰で、いままで手を触れることができなかった「在宅医療」や「在宅看取り」あるいは「看取り」について皆で考える機会が与えられることになりました。地区にある地域交流室での開催でしたが、2回とも定員を超える参加者があり、実はこういった話が出る機会が求められていたという実感を得ました。

一般の人は看取りについて「タブー」感があるのではと心配しましたが、そういったことはほとんどなく、会は活気のあるものとなりました。看取りを経験されたご家族にとっては、その経験をこのような“安心して語ることのできる場”で率直に語ることによって、ある種の慰謝と励ましを新たにお持ちになられた印象がありました。参加者からも自然に質問が出て、会場が一つになった観がありました。

看取りの会を開催するにあたっては、日頃から地元でご活躍の医師や看護師、介護専門職の皆さまから圧倒的なご賛同とご協力を賜り、市民の集いのよい方向付けができ、会の質が担保できたことは実に有難いことでした。

今回の集いに来て下さった方は、もともとご興味や問題意識をお持ちの方と思われるので、広く一般の関心と呼び起こすためには地道で継続的な活動が不可欠だと思います。参加者の中にも、こういった「市民の集い」がなければ在宅や看取りについて考える機会がなかったという人が多くいらっしゃいました。有料でもよいので参加したいとのご意見もいただきました。

看取りについても、「延命治療」と重なることの多い「がん」や「老衰」といったテーマ

や、本人が最後までどう暮らしたいかという希望を周りがしっかり受け止められるかなど、色々と積み残したテーマがありますので、今後も機会を見つけて取り上げていきたいと思っています。

一般には、在宅での「看取りは大変！」ということが大前提のように思われていますが、またそれはある意味事実ではありますが、穏やかに見送ることができたときの家族の持つ「達成感」や「安心感」、あるいは「故人から生きる力をもらう」という素晴らしい面があるということを忘れてはならないし、この点はもっと広く伝えていかなければならないと思います。

今後も小田原に在宅看取りの考えが芽吹くように継続して発信していきたいと専門家の皆さんからご支援を頂いておりますので、とりあえず来年に向けては、市民団体「アペゼ」主催の一般向け連続講演会のプログラムとしていくつか組込んでみたいと考えています。

看取りを経験した自分自身といたしましては、看取りまでは頑張れるけれども送ってしまったあとも自分の日常は続くわけで、しかし今までとは生活スタイルが大きく変わります。新たにライフスタイルを構築するまでは、すくなくとも四十九日までは、取りこのされた人に対して一種の「グリーンケア」のようなものがあつたらよいと強く思います（所詮は本人の問題ということはよく承知しているのですが）。

最後に、在宅医療や在宅看取りについて多くの人たちと考える機会を与えて頂きました勇美記念財団に心より御礼を申し上げます。貴財団の一層のご発展を祈念致します。

以上

(註：報告書あるいは資料中の、清水、またはMSとあるのは助成対象者小林です。)

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による「看取り」での経験を語る会

市民の集い 「看取り」の経験を語る会

参加無料

【日時】

第1回 9月 15日 (土) 17:00 ~ 19:00

【場所】

潤生園みんなの家たじま 多目的室=地域交流室 (小田原市田島 1175-1)

【内容】

「看取り」は重いテーマですが、在宅や施設での看取りは医療経済の上からも避けて通れない状況にあります。

まだ公に語られることの少ない「看取り」ですが、お看取りをすでに経験なさったご家族などが、その難しかったこと、よかったと思うこと、こうすればよかったことなど、いろいろな思いをざっくばらんに語り合います。様々なお話を通じて、私たちが心づもりをすべきことなどが見えてくるかもしれませんね。

【お話の会メンバー】

高橋 英美氏 ケアマネジャー(介護支援専門員)

内田 邦彦氏

平川 依子氏 ご夫妻

林 多嘉子氏

東園 美智子氏 ケアマネジャー(介護支援専門員)

小泉 幸子氏 ケアマネジャー(介護支援専門員)

若松 麗葉氏 ファシリテーター

清水三美子 世話役 (アペゼ事務局)

定員 15名 (参加申し込み: 070-1537-3913 清水まで)

第2回 市民の集い「看取りの経験を語る会」

参加無料 定員 25名

【日時】

2018年11月17日（土） 15:00—17:00

【場所】

潤生園みんなの家たじま 多目的室＝地域交流室
(小田原市田島 1175-1)

【パネリスト】

中島 厚先生	訪問診療 あおぞらクリニック院長
戸松 絵美氏	訪問看護ファミリーホスピス小田原センター長、看護師
関野 雅子氏	もみの木居宅介護支援事業所
田中 祐介氏	富士ライフサポート 福祉用具
大越 直美氏	ヘルパーステーションふわり

【内容】

「在宅看取り」は重いテーマですが、医療経済の上からも避けて通れない状況です。ご経験豊富な在宅医療の専門家の方々からいろいろお話を伺います。

広く将来をお考えの方に是非ご参加いただきたいと思います。参加者の「？」にもできるだけお答えいたします。

多角的に連携して在宅医療を支えている専門家のご意見を通して、私たちが心づもりをすべきことなどが見えてくるかもしれませんね。

(参加ご希望は清水まで：070-1537-3913)

これは勇美記念財団の助成を受けています。